

# Scrumで 障がいを持っている人たちを ITエンジニアに育成する

一般社団法人翔明会とアットウェアの協働の取り組み

株式会社アットウェア 取締役 北野弘治

# Agenda

▶ 自己紹介

▶ 障がい者の就労の状況

▶ なぜこのことに取り組んでいるのか？

▶ スクラムで就労問題を解決する

▶ 現時点での成果

▶ 今後の展望



01

自己紹介  
About US

## ▼ 北野 弘治（きたの こうじ）



### 株式会社アットウェア 取締役 **福**社長

#ITエンジニア #起業家 #アジャイル #ドリームマネージャー #組織デザイン #コーチング

#⓪推し球団が日本一 #☕コーヒー焙煎 #🏌️シングルハンデ #✈️ANAマイラー

#スクラム・セルで障がい者の就労問題を解決する

# ▼ 一般社団法人翔明会（つなぐコミュニティーズ）

「障がい者の人達が安心して暮らせる社会を創る！」

事業内容 就労継続支援B型事業所

代表 宮本達之 / 荒牧功一

利用者数 46名（2024年11月現在）

施設 2拠点（福岡県福岡市西区・  
北九州市黒崎）



代表 宮本氏

元々は自転車仲間としてtwitterで繋がった





# 02

## 障がい者の就労の状況

Employment situation for people with disabilities

## ▼ 障がいを持っている人はどのぐらい居る？

**日本では、10人に1人が障がいを持っているといわれています。**

厚生労働省の発表によると、約960万人（人口比7%）の方が何らかの障がいを持って（障がい手帳・療育手帳など）いるとのこと。さらに、自分はそうじゃないのかな？と感じながら障がいの認定をしてもらって居ないグレーゾーンの人を加えると、約10人に1人は障がいを持っていると言えます。



**10%**

## ▼ 障がい者の就労環境

**2024年の改正で、40名以上の企業では、障がい者を1人雇用することが求められています。**

法定雇用率は2024年4月より、2.3%から2.5%に引き上げられ、さらに2026年には2.7%へと引き上げ予定があります。

ただ、この数ではまだまだ日本の障がい者を賄える数字には達していません。



# 2.5%

# ▼ 障がい者の労働賃金

出典：厚生労働省「令和4年度工賃（賃金）の実績について」

## 2. 結果

令和4年度平均工賃（賃金）

施設種別	平均工賃(賃金)		施設数 (箇所)	令和3年度(参考)	
	月額	時間額		月額	時間額
就労継続支援 B型事業所 (対前年比)	17,031 円 (103.2%)	243 円 (104.3%)	15,354	16,507 円	233 円
就労継続支援 A型事業所 (対前年比)	83,551 円 (102.3%)	947 円 (102.3%)	4,196	81,645 円	926 円

**約 17,000 円 / 月**



## ▼ 翔明会のミッション

「障がい者の人達が安心して暮らせる社会を創る！」

そのために、利用者さんの  
目標工賃を10倍（17万円）  
以上にしたい！



# 10倍

# 03

なぜするの？  
What motivates us?

## ▼ 私たち「アットウェア」のミッション



“システムで人々をシェアにする”

**Core Value**

# システムで人々を シェアにする

(アットウェアのミッションより引用)  
＞世界をより良いものに変え、一人でも多くの  
の人にシェアを届けたいと願っています。

## ▼ 私の息子が障がい当事者

私の息子も1人が知的障害を持っています。  
現在は、2年前に就職した企業で元気に働いています。  
雇用してくれた企業に大変感謝しています。

宮本氏より現在の日本における障がい者を取り巻く就労問題を知り、この社会課題の解決に向けて自分スペシャリティのIT分野が活かせる機会と思いました。



## ▼ 機運の高まり：企業や社会がD&I,DE & Iに注目

ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン  
＝誰もが活躍できるように企業として取り組んでいく、というコンセプト



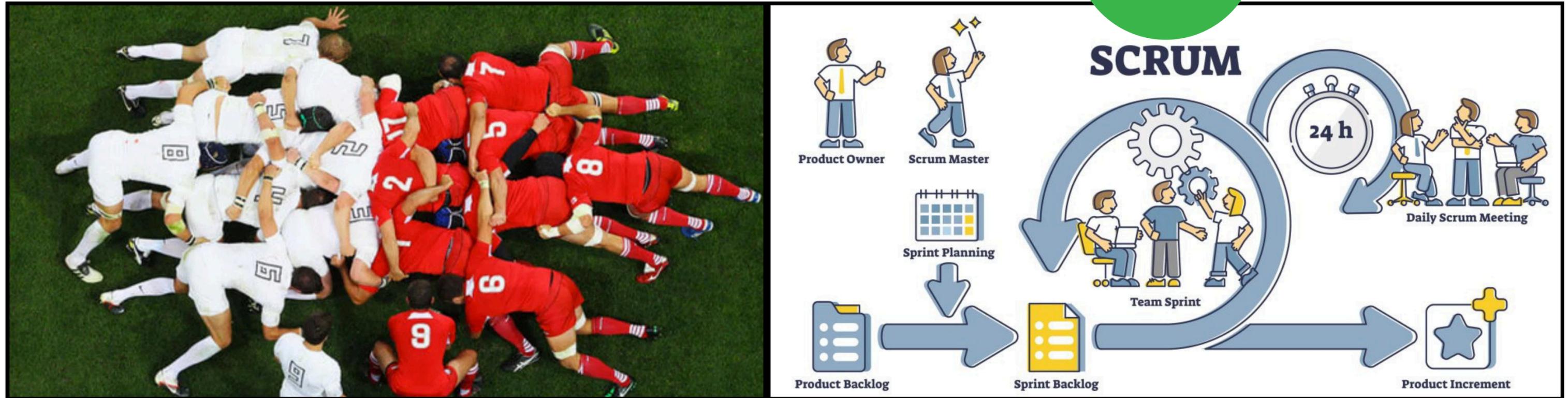


# 04

## スクラム・セルで就労 問題を解決

Solution with SCRUM & The Cell

# ▼ スクラムはスクラムでも、 アジャイルソフトウェア開発で用いるスクラム



※アジャイルのSCRUMの語源は、スポーツ競技のSCRUMから来てます。

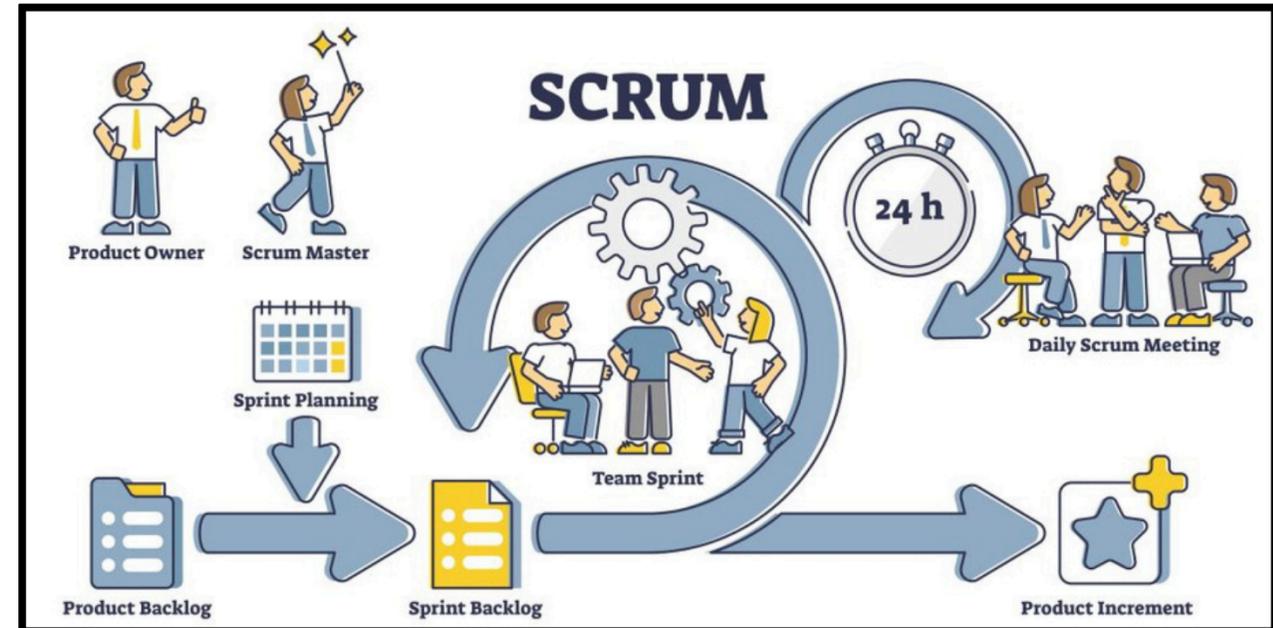
# ▼ なぜ障がい者のITエンジニア育成にスクラムなのか？

> 仕組み・規律がある

> コミュニティができる

> 知識を共有・形式化できる

> お互いカバーし合える



## つなぐSCRUM憲章

私たちは「SCRUMの基本原則と5つの価値基準」を優先して行動します。

### SCRUMの基本原則

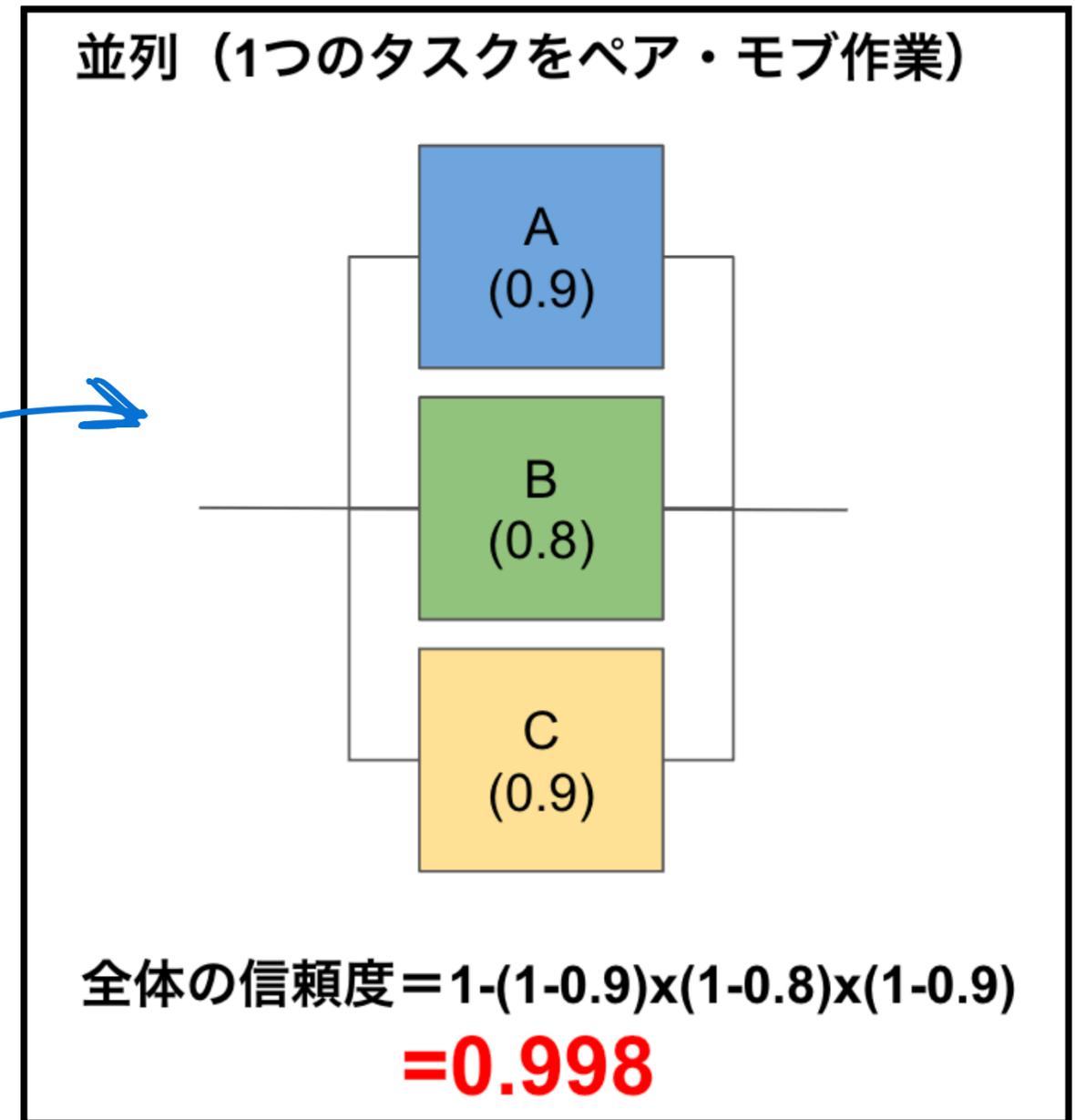
1. 経験的プロセスの管理 — 透明性、検査、適応でプロセスを改善する
2. 自己組織化 — マネジメントの主体は特定の誰か1人ではなくチーム全員で。自分達で意思決定する
3. コラボレーション — 最大限の結果を得るために全員で協力する
4. 価値観に基づく優先順位 — 最高の価値を提供するために優先順位づけをする
5. 時間を区切る — 継続的に改善するために時間を区切る
6. 反復的な開発 — はじめから完璧でなくても反復的な開発で完成度を高めていく

早く行きたければ一人で行け、

**遠くに行きたいので皆んなで行こう。**



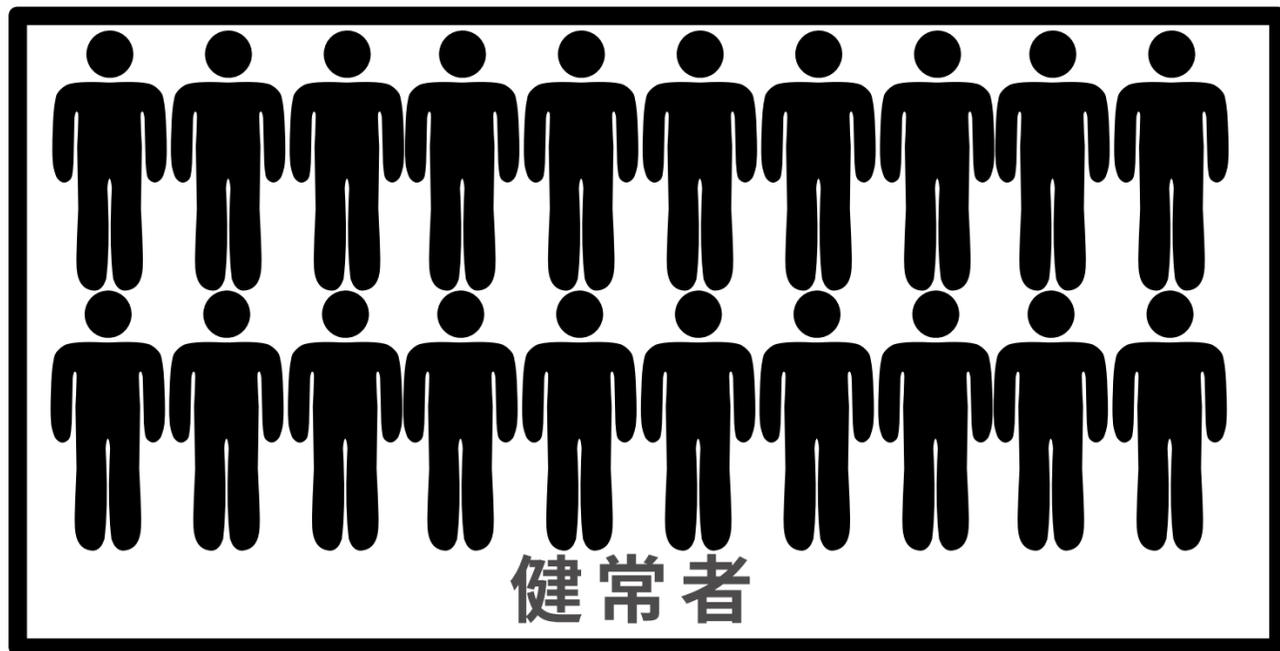
Mob Programming  
モブプログラミング



# 「セル型組織」で就労問題も解決！

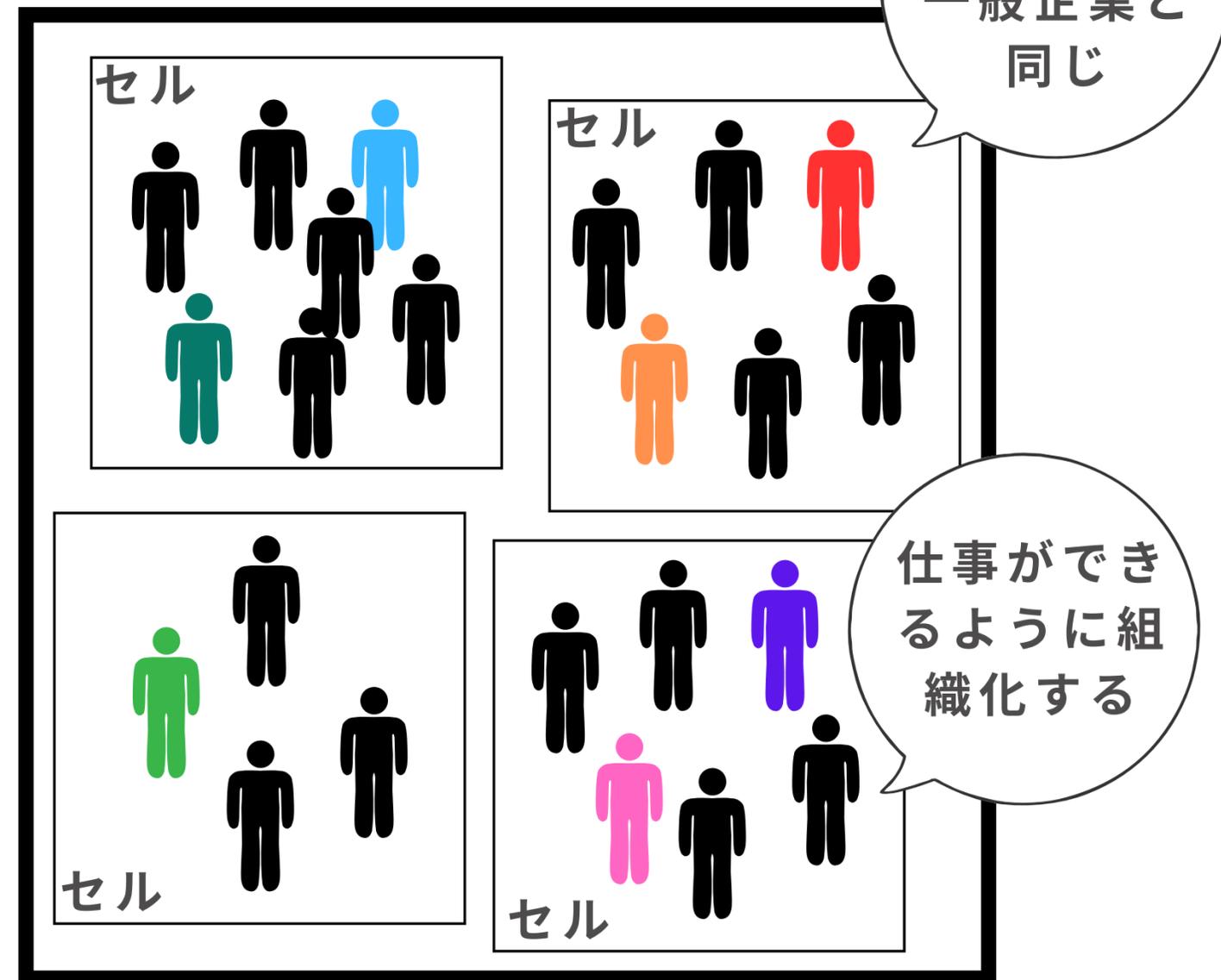
特例子会社モデル

親会社



能力を活かす

これからのモデル  
(DE&I)



ヤマハMIRAI(ヤマハ発動機の特例子会社)  
も推進

05

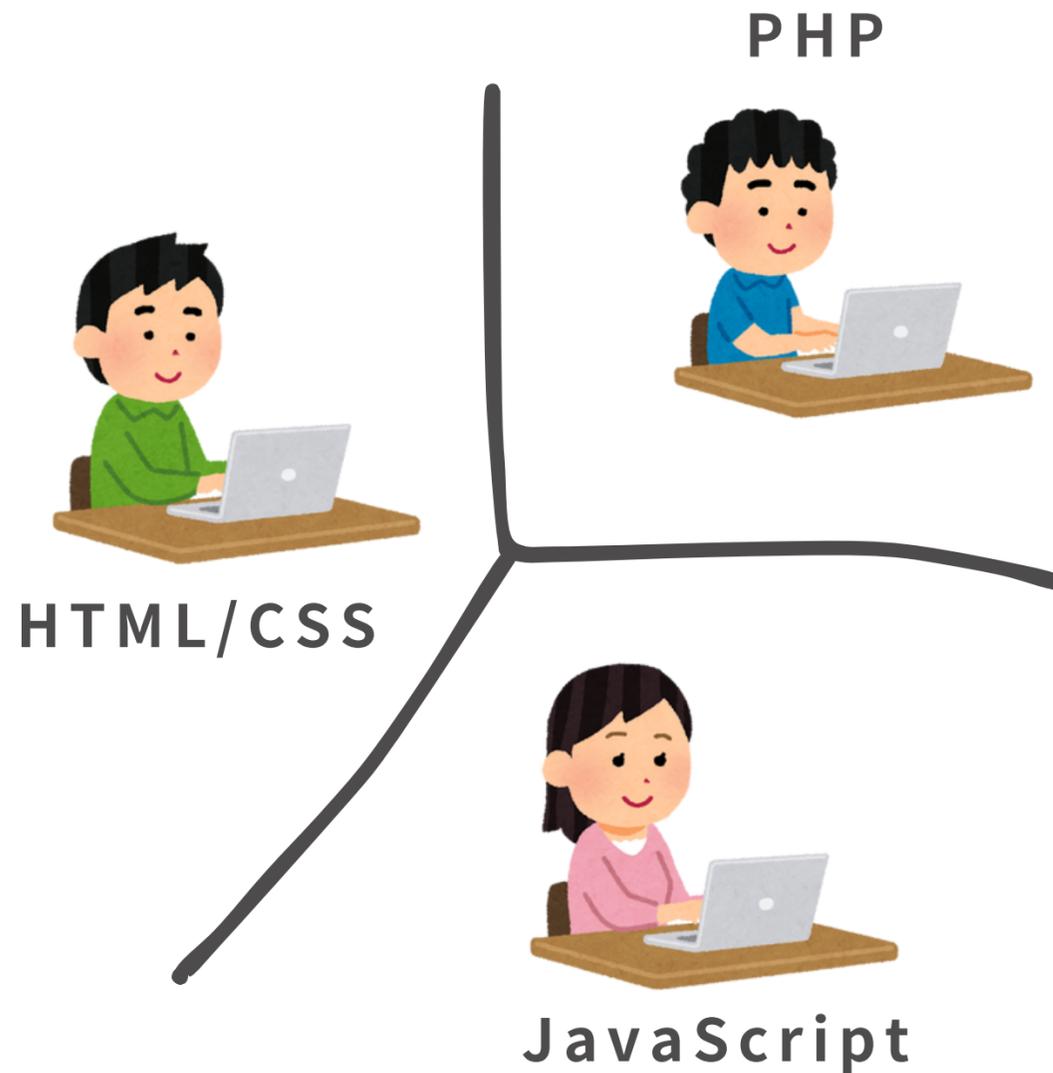
これまでの成果

2023.6～現在

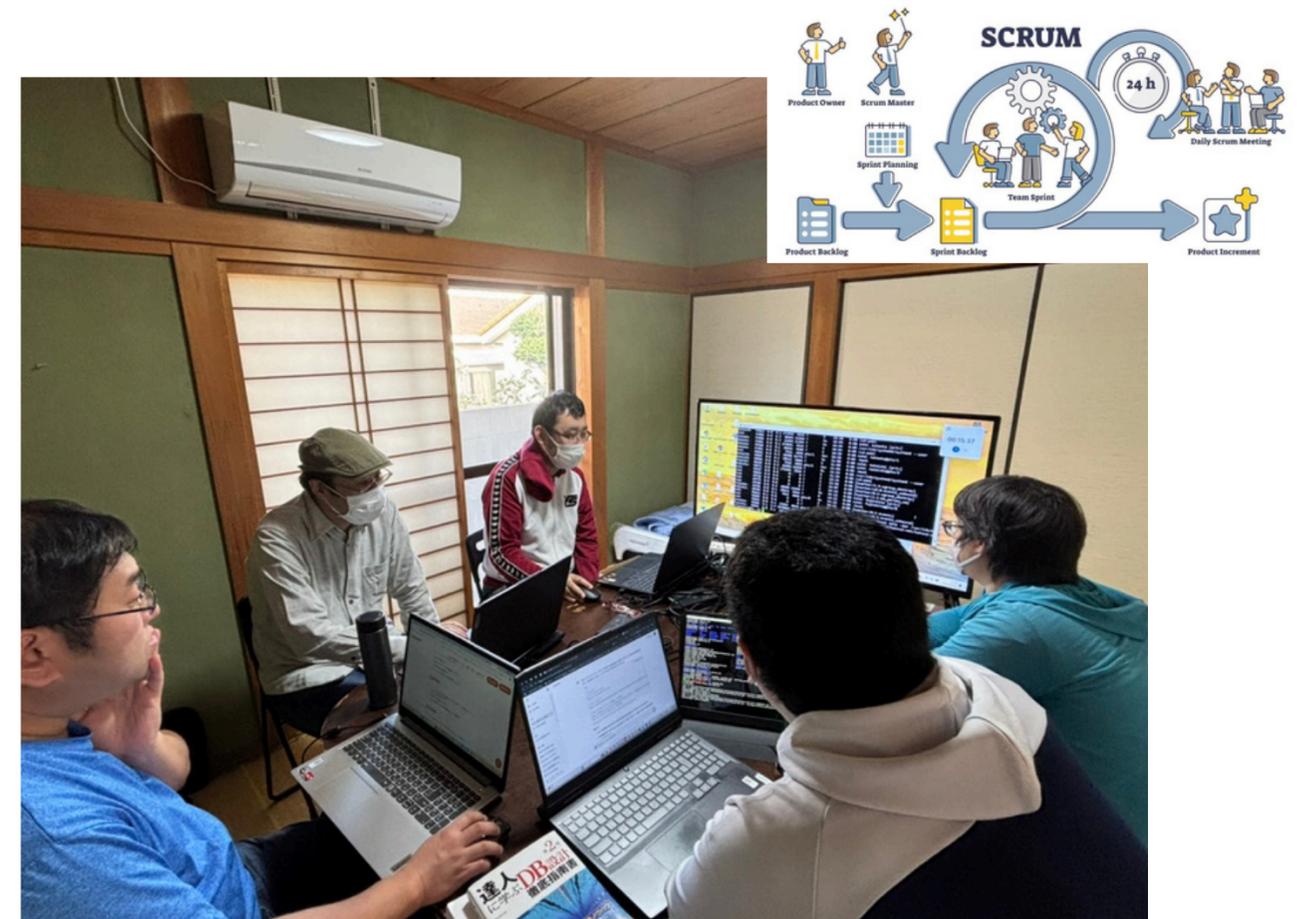
Outcome

# ▼ Before/After

個々に違うことを自己学習  
専門家のサポートなし



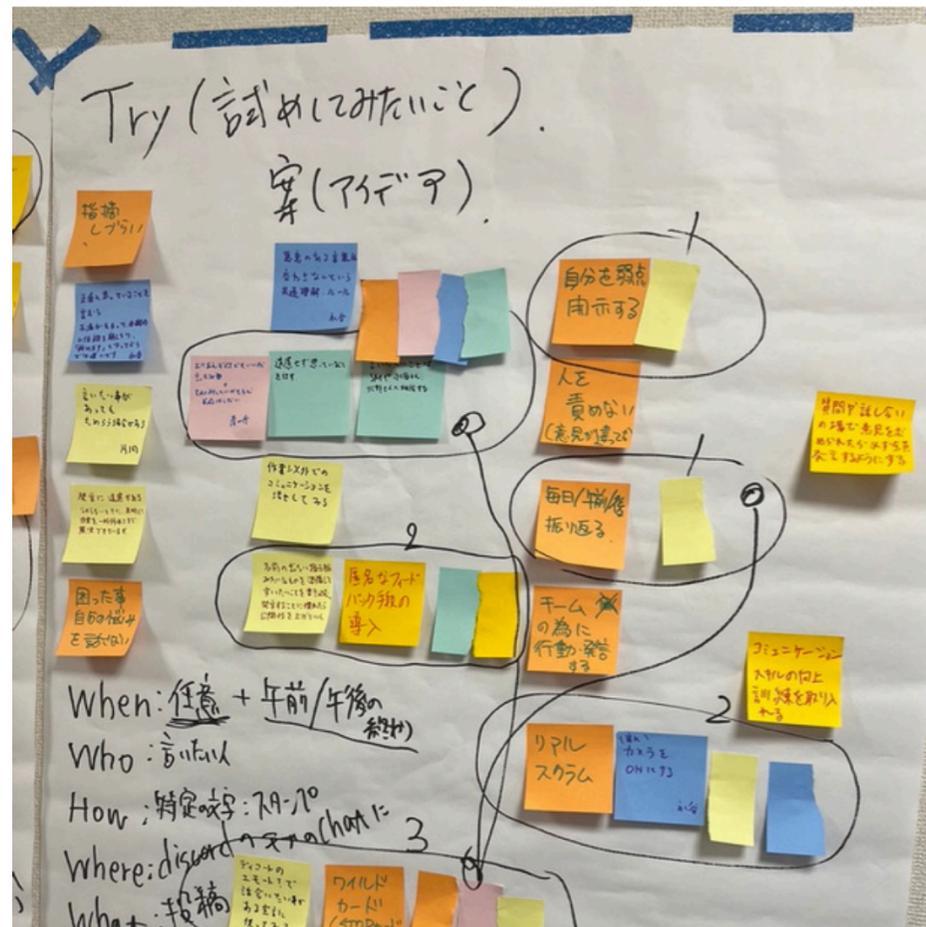
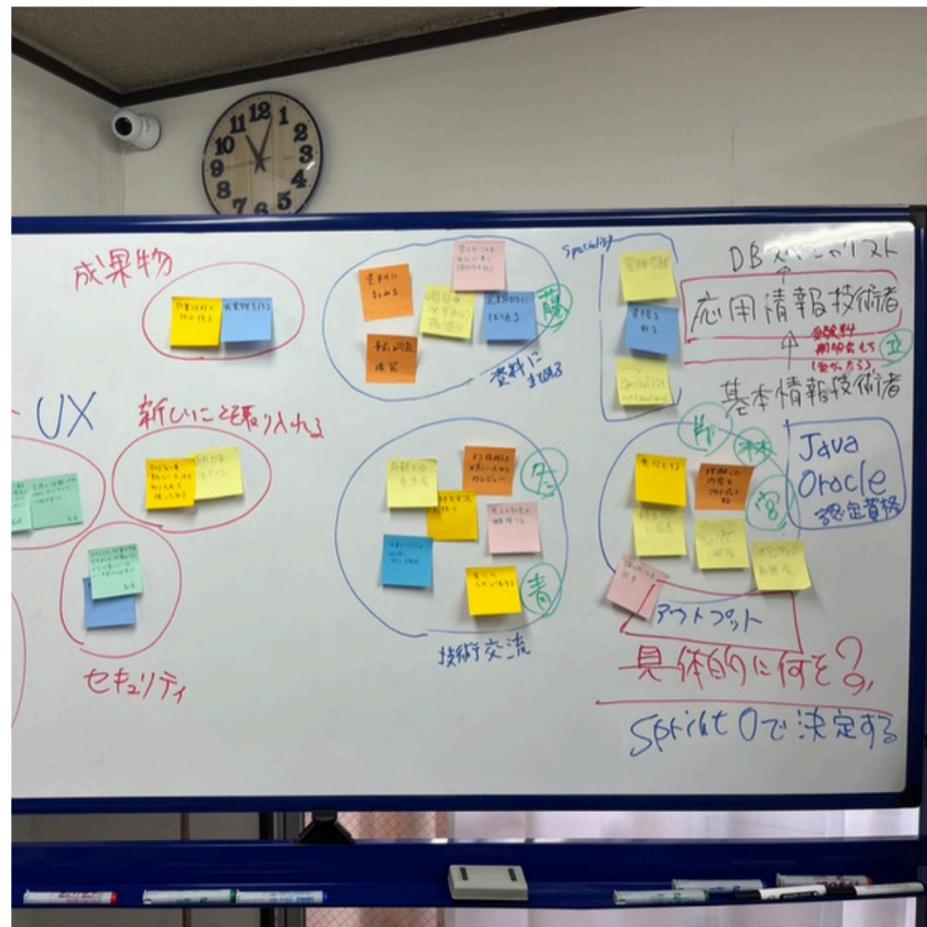
# SCRUMで 機能するように組織化



業務Web開発をターゲットとして活動中

# Before/After

SCRUMが正常に回り、各自が意見・アイデアをチームに提案し、自分達で意思決定できるようになった



## 目指せ「高収入のエンジニア」 B型事業所で本格IT訓練

福岡市東区「翔明会」 障害者の雇用環境改善へ挑戦

目指せ高収入のエンジニア。福岡市東区の「翔明会」が、障害者に対するIT訓練を本格化させている。1カ月以内の期間で、障害者の雇用環境を改善し、高収入のエンジニアを目指す。翔明会では、障害者の雇用環境を改善し、高収入のエンジニアを目指す。翔明会では、障害者の雇用環境を改善し、高収入のエンジニアを目指す。



「2期目スクラムチーム」の始動イベント。「ITエンジニアの心得」などを学んだ

翔明会は、ITエンジニアの育成に力を入れている。2期目スクラムチームの始動イベントが開催された。このイベントでは、「ITエンジニアの心得」などの内容を学んだ。翔明会では、障害者の雇用環境を改善し、高収入のエンジニアを目指す。



「チーム作業、楽しい」2期目スクラムチームのメンバー

チーム作業、楽しい。2期目スクラムチームのメンバーが、チーム作業を通じて成長を遂げている。メンバーたちは、チーム作業を通じて成長を遂げている。翔明会では、障害者の雇用環境を改善し、高収入のエンジニアを目指す。

# Before/After



エンジニア育成プロジェクトに参加する西藤さん。チーム作業に充実感を覚えながら訓練している



期メンバーの1人だ。高校卒業後、IT関係の専門学校に2年通ったが、時は就職氷河期。学びを生かせる仕事に恵まれず、配送や営業などITとは関係ない職場を転々とした。慣れない環境で人間関係やパワハラに悩み、10年ほど前うつ病となった。

「このチームで、まずは何か一つ製品を作り上げた」。そう目を輝かせた。

昨年夏に翔明会の福祉サービスを利用し始め、今回のプロジェクトを知った。「エンジニアになりたい」との思いは持ち続けていたため「渡りに船。参加してみよう」と手を挙げた。

2期目のチームが始動した5月は、例年なら体調を崩しやすい時期。今年は順調だったという。「分からない部分は教え合ったり、何げない雑談もわいわいとしていて楽しい」。チームでの作業は初めてだが、充実感を覚えている。

## 「チーム作業、楽しい」2期目メンバーの西藤さん

取り組みの背景には、障害者の経済的自立を巡る現状への問題意識がある。厚生労働省によると、全国のB型事業所の平均工賃は月額1万7031円（2022年度）。「この収入が休んでも、他のメンバーが作業を進めることができると話す。北野さんも「お互いの苦手な部分をカバーしながら安定的に成果が出せるのではないかと期待を込める」。

チーム全員で「1人の仮想エンジニア」を構成しているイメージだ。宮本さんと北野さんは「スクラムを採り入れて本格的にITを学ぶ福祉事業所は他にないのではないかと話す」。

西藤智広さん(48)は力を込める。「独立するくらい稼げるようになりたい」。翔明会によるITエンジニア育成プロジェクトの第2期目は付加価値が高い。知人の北野さんに相談すると、スクラムを取り入れてチームで訓練することを提案された。昨年6月にプロジェクトが始動し、1期目のチームは現在、実践的な訓練の段階にある。「社内コミュニケーションに課題があるので解決したい」という架空の注文に対し「事業所内SNS」の構築を提案、開発するという内容だ。

訓練が終われば、一般企業への就職のほか、そのままチームとして翔明会の関連会社を立ち上げる選択肢を視野に入れる。勤怠や業績目標管理、人事評価のシステム開発などを担う構想を描く。

当面の目標は月収1人15万円、上積みも目指す。「全国の事業所にノウハウを広め、障害の有無にかかわらずスクラムチームを結成できる環境をつくりたい」と北野さん。宮本さんは「高収入を実現し、社会を勇気づける存在になってほしい」と期待する。

仲間ができ、共に働くことが楽しい

# ▼ 今後の3つの選択肢

随時見学OK!!



**協働で開発**

すでにあるセルを活用して開発したい

**セルを雇用**

社内にDE&Iを取り込みたい企業

**個人を雇用**

まずはスモールステップで

06

# 今後の展開・野望

Next & Vision

▼ 福岡市の事例を基に、全国にITエンジニア育成訓練ができる拠点を拡げていき、一人でも多くの人を自立させたい（全国で100セル）



# Thank You!

今後ともよろしくお願ひいたします